

6月FOMCは金利据え置きもタカ派シフト、新議長は改革姿勢を鮮明に

- 6月FOMCは4会合連続の金利据え置きを決定
- 年内は据え置きまたは利上げ、物価動向見極めへ
- ウォーシュ新議長は改革実現に向けて作業部会を設置

■ 政策金利据え置きも、物価警戒姿勢は鮮明

6月16-17日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、4会合連続での政策金利(3.50-3.75%)の据え置きを全会一致で決定。声明文では「物価安定を実現する」として物価上昇圧力への警戒姿勢を明確にし、前会合で3票の反対票が入った利下げガイダンス記載を廃止しました(図1)。各種経済見通しでも、インフレ率は大幅に上方修正されています(図2)。一方、雇用については安定化しているとの判断を維持。その結果として、政策金利見通し(ドットチャート)は全体的にタカ派へシフトし、年内は1回の利上げ(6名は2回以上の利上げ)または据え置きが予想されています(図3)。ただし、長期部分のドット中央値はほぼ変化せず、物価安定最優先の姿勢を示した印象です。

これらを受け、市場は大多数が年内1回の利上げを織り込む形に。金利高、ドル高、株安で反応しています。

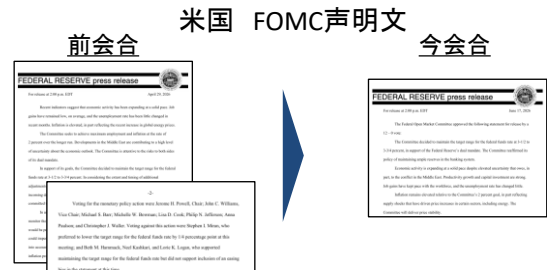
■ 新議長は作業部会を通じて改革を実現か

ウォーシュ米連邦準備理事会(FRB)議長は、着任後初の会合を終えた記者会見で、金融政策の5分野(コミュニケーション、バランスシート、データソース、生産性と雇用、インフレ枠組み)を検証する作業部会の設置を公表。今年秋から年末にかけ結論を出すとなりました。本会合自体では同議長がかねてより主張していた、バランスシート縮小やインフレ目標の変更、AIの物価への下方圧力などには触れなかったものの、こうした作業部会の検証・提言を経て政策に反映していく予定と見られます。

すでに本会合では、声明文が大幅に簡素化されたほか、同議長は経済・政策金利見通しについて見通しを提出しませんでした。実際、会合後の記者会見でもフォワードガイダンスは適切でないという評価しており、「政策金利は引き締めのめのか」との記者質問についても回答を避けるなど、同議長の変革志向は鮮明となっています。

政策金利は、数会合は据え置きで様子を見る見込み。しかし、パウエル前議長の明確なコミュニケーションに慣れた金融市場にとっては、金融政策はより見通しづらくなったと言えます。今後は会合ごとに大きく市場が変動する可能性に注意が必要と考えられます。(牧)

【図1】 声明文は大幅簡素化、利下げガイダンスを削除



(声明文全文、下線は作者)

連邦公開市場委員会(FOMC)は、以下の声明を**全会一致(12対0)**で承認した。委員会は、連邦準備制度の二大使命を支持するため、フェデラル・ファンド金利の目標レンジを**3.50%から3.75%に据え置く**ことを決定した。委員会はまた、銀行システムにおける**潤沢な準備預金を維持する政策を再確認**した。経済活動は、中東での紛争に起因する不確実性の高まりにもかかわらず、堅調なペースで拡大している。生産性の伸びと設備投資は力強い。雇用増加は労働力の伸びと歩調を合わせており、失業率もほとんど変化していない。インフレ率は委員会の2%目標と比べて**依然として高い水準**にあり、その一因はエネルギー分野を含む特定の分野で価格上昇をもたらした供給ショックにある。**委員会は物価安定を実現する方針である。**

出所) FOMCより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図2】 物価を大幅上方修正する一方、雇用は安定化示す

FOMC 各種経済見通し(2026年6月)

指標	2026年	2027年	2028年	長期
実質GDP (前年比、%) _{3月}	2.2 2.4	2.3 2.3	2.2 2.1	2.0 2.0
失業率 (%) _{3月}	4.3 4.4	4.3 4.3	4.2 4.2	4.2 4.2
PCEデフレーター (前年比、%) _{3月}	3.6 2.7	2.3 2.2	2.0 2.0	2.0 2.0
コアPCEデフレーター (前年比、%) _{3月}	3.3 2.7	2.5 2.2	2.1 2.0	- -

注) ウォーシュ議長は見通し提出せず。グレーの網掛けは2026年3月時点の見通し。

■は2026年3月時点から上方修正(失業率は下方修正)、

■は下方修正(失業率は上方修正)されたもの。

PCEは個人消費支出、コアは除く食品・エネルギー。

出所) FOMCより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図3】 全体的にタカ派シフトも、長期見通しはほぼ変わらず

FOMC 政策金利見通し(2026年6月)

(%)	2026年	2027年	2028年	長期
4.500				
4.375	●	●		
4.250	●●●●	●●		
4.125				
4.000				
3.875	●●	●●●●	●●	●
3.750	●●●●●●	●●	●●●●	●
3.625	●●●●●●	●●	●●●●	●
3.500				
3.375	●	●●	●●	●●
3.250				
3.125	●●●●	●●●●	●●●●	●●
3.000	●●●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
2.875			●	●●

注) ウォーシュ議長は見通し提出せず。長期部分は3.125と3.000の平均を中央値として囲み。

□は2026年6月時点、■は2026年3月時点の中央値を示す。

出所) FOMCより三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会